

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	10*0400092
法人名	ケア サプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム ひのき
所在地 (電話番号)	伊勢崎市境下瀬名1473 (電話) 0270-70-2405
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大渡町 1丁目10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 11月 30日

【情報提供票より】(21年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 平屋 造り 1階建て, 1階 部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (無)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
または1日当たり			

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 79 歳	最低 55 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井戸診療所・すずき歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設間もない(7ヶ月)ホームである。管理者のゆったりとした態度はサービスの質を上げることに意欲があり、質の良いケアを目指そうとしている。職員と利用者は「家族として一緒に生活している」ことを大切にしているが、サービスの提供者であるという立場をわきまえ、的の外れていないケアを提供している。今後この新しい施設をどのように航海させ、舵取りを行っていくのか楽しみな施設である。また、利用者が外の空気を吸ったり外に出て行くことで地域で暮らし続けていくことを支援し、テラスを上手に利用し外に出る機会を担保して、家庭での生活の延長を意識し続けていってほしい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義は職員に共有されている。自己評価票は職員に作ってもらい会議にかけ、管理者が取りまとめた。職員からは表現の仕方等で質問が出ている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設以来2ヶ月に一度定期的に開催している。家族・民生委員・市職員等が参加している。ホームから現況報告・ヒヤリハット等の報告がされ、家族からはインフルエンザに関する意見が出ている。市職員からは運営推進会議開催の意義等に関して説明があった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営者・管理者は日ごろから利用者の家族に対して何でも話してもらえ環境に努力している。家族からの質問や利用者の暮らしぶり・健康状態・職員の異動等は口頭で説明している。また、希望した家族には個人記録等を見てもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設準備中から近隣の方々とはかかわりを続けていた。地域の運動会に声をかけてもらったり、回覧板をまわしてもらっている。地域の道路愛護の行事にも参加している。また、近隣のグループホームの運動会にも参加している等で、地域とのコミュニケーション等のかかわりを大切にしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員が話し合い「・・・住みなれた地域で・・・その人らしい生活を楽しむことが出来るよう支援いたします」という理念を作り上げた。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関・事務所の見やすいところに掲示し、職員会議時や本部の課長が職員に説明を行なっている。大切にしているのは、利用者と職員が共に生活する家として支援して行きたいが慣れあいにならないようにすることであると管理者は考えている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人課長が開設前よりこの地の方々と関わっていた。近所の人達とは散歩時に挨拶をしたり・見学にきてもらったりしている。ゴミステーションの清掃や道路愛護、地域の運動会への参加や回覧板を回してもらおう等で地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人課長より評価の説明を職員が受けている。管理者・職員は評価の意義を理解し、職員が自己評価票に記入し、会議で討議し、管理者が取りまとめ作成した。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。施設からは現況・行事・ヒヤリハット・脱水症等について報告されている。家族からはインフルエンザ対応についての意見が出ている。市職員からは運営推進会議の意義等が説明されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は法人課長と共に利用者の怪我の相談や、利用状況の報告等で市担当者との交流に努め、サービスの向上に結びつけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料を現金で持参してもらい、利用者の健康状態・暮らしぶり等をその都度報告している。また、面会時や急用の場合は電話でも報告している。今後「ひのき通信」を発行する予定がある。	○	家族への報告は口頭での報告が多い。その他の手段を取り入れることを検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。緊急時の対応の仕方や利用者の会議参加に関して家族から意見が出たり等で運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員に対しては管理者がついて半月程度日勤をしてもらう。その後夜勤も管理者が付き見極めて一人勤務に移行する。職員は担当制をとっているが、担当外の職員も利用者の状況を把握している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	防火管理講習・管理者研修・地域密着型連絡協議会の事例検討会参加・認知症ケア会議等の研修を受けている。1年に2回法人研修を受けている。研修参加者は研修後報告を行ない共有している。資格取得のための支援がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、事例検討会に参加している。地域のグループホームの運動会に参加したりしながら、ネットワークを作っている最中である。	○	設立間もないので、他法人の同業者との交流が期待できる。積極的なネットワーク作りを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学は随時受け入れている。家族と一緒に施設を見学してもらいお茶を飲んだりしながら、家族と相談して入居につなげている。入居を拒んだ方には家族と協力しながら電話や会話等で馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の職歴を生かして会議で意見を言ってもらったり、花壇の手入れをお願いしたり、調理方法、洗濯物のたたみ方、掃除方法などを教えてもらっている。いったん退所した人が入所をまた希望してくれているなど、お互いに助け合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中や夜などゆっくり出来るときに聞き、利用者の意向の把握に努力している。入所前の生活の継続が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向の確認を行い、職員が話し合っって介護計画を作成している。本人・家族から了解のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと3ヶ月に1度のモニタリングを行い、体調の変化があった場合には随時の見直しがされ介護計画の見直しがされている。	○	実情に即した・変化の兆しに予防的に対応するためにも月に1度のモニタリングを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を聞き、買物や通院支援・訪問美容・認知症専門医の支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則は入所前のかかりつけ医になっているが、入所時協力医の認知症専門医の説明をして変更する場合もある。月に2回の協力医の往診支援がある。往診結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に施設の方針を説明し、家族の意向を確認しながら、文書を交わしている。方針は職員同士で事例を用いながら共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	姓または名にさんを付けて呼んでいる。排せつ時には他の利用者に悟られないように声かけをしている。入浴は個別対応である。個別の記録等は事務所に保管されている。職員から守秘義務の誓約書を取り付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の大まかな時間は決められているが、消灯時間は決めずに個人の希望を取り入れ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者との日ごろの会話の中や家族から聞き希望を取り入れ作成している。職員は食材を買いに行き、調理している。禁食や嫌いなメニューの場合は代替品がある。利用者と職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が設定されてはいるが、希望を取っている。時間帯は午後個浴が原則だが、仲良しさんとも入れる。ゆず湯、シャワー欲にも対応している。拒否のある人には清拭対応をしている。	○	利用者の希望や入れそうなタイミングで入れるように、入浴日や時間帯にしばられない取り組みを希望する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割としては、テーブル拭き・洗濯物たたみ・食器拭き・拭き掃除・花の水遣り・雑巾縫いをお願いしている。楽しみごとには外出・カラオケ・ぬり絵があり、外食やドライブ・テラスでのお茶・お話が気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	野菜の収穫・散歩・テラスに出たり、買物等の日常的に外に出掛ける支援がされている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・テラスとも開錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、通報訓練・消火訓練を昼設定で行っている。近隣住民にも訓練の参加を呼びかけているがまだ参加はない。避難場所は取り決められている。職員は全員参加している。自主訓練も予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量とも記録がされている。水分は1日1000ccの目安がある。利用者が自由に水を飲むことが出来るサーバーが設置されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広いテラスにそのまま出られるようになっている。植木・テーブル・椅子・畳のスペースがある。畳のスペースには人形・テーブルがあり、昼寝を楽しんだりしている。ダイルームから続くテラスではお茶を飲んだりしながら外の風を感じることが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンス・ポータブルトイレが置かれ、家族の写真・作品が飾られていた。居室からテラスに出ることが出来、ベッドも出すことが出来る等の居心地良さと安全の工夫がされている。		